

中小企業景気動向調査

〔2014年4～6月期の景況/7～9月期の予想〕

【調査要項】

実施期間: 2014年5月20日～6月6日

調査対象: 県内の当金庫のお取引先 979社 (下記参照)

調査方法: 郵送および面談によるアンケート調査

分析方法: 業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値 (DI: Diffusion Index) を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	427	134	68	31	150	40	37	92	979
回答数	375	123	62	30	133	36	31	82	872
回答率 (%)	87.8	91.8	91.2	96.8	88.7	90.0	83.8	89.1	89.1



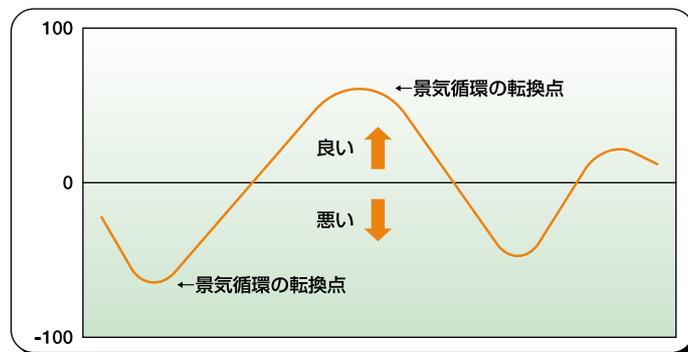
DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3ヵ月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 (\%ポイント)$$



結果概要

4～6月期の景況

6四半期ぶりに景況感悪化。消費増税にともなう駆け込み需要の反動などで。

自動車部品製造業の悪化は、予想したほど大きな悪化ではない。

機械器具部品製造業は設備投資の持ち直しを背景に5四半期連続の改善。DIはプラスを維持。

建設業と不動産業もDIのプラスを維持。

7～9月期の予想

先行きは改善を見込むが、慎重な見方をする企業も少なくない。

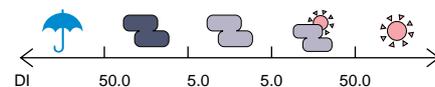
人手不足感は幅広い業種に広がっている。

業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	前期 (1～3月)	今期 (4～6月)	予想 (7～9月)	業種	前期 (1～3月)	今期 (4～6月)	予想 (7～9月)
全産業	6.5	8.3	3.9	印刷	33.3	36.3	36.4
製造業	4.7	4.3	3.0	食料品	20.0	22.2	22.2
非製造業	7.9	11.2	4.6	卸売業	10.5	19.5	14.1
自動車部品	13.5	6.8	0.0	小売業	1.6	31.7	15.8
機械器具部	9.2	21.0	16.5	飲食業	38.5	20.0	28.6
金属製品	9.1	26.3	8.4	建設業	22.6	1.5	13.9
窯業・土石	0.0	17.7	13.3	不動産業	0.0	2.9	17.2
木材・木製品	42.8	40.0	80.0	運輸業	18.2	16.1	0.0
繊維製品	9.6	4.2	16.7	サービス業	1.2	5.0	0.0

〔天気図の見方〕



業況判断

〔全産業〕

4～6月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス8.3となり、1～3月期（6.5）にくらべ14.8ポイント悪化した。悪化は6四半期ぶり。

7～9月期の**予想業況判断DI**はマイナス3.9と、4.4ポイントの改善を見込む。

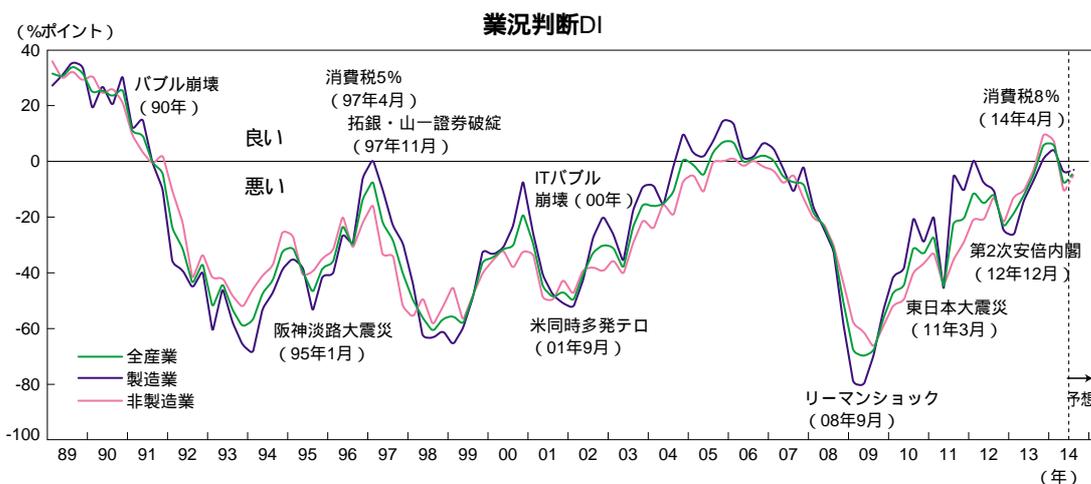
	前期 [1～3月期]	今期 [4～6月期]	予想 [7～9月期]	変化幅			
				前期	今期	今期	予想
全産業	6.5	8.3	3.9	-14.8		4.4	
製造業	4.7	4.3	3.0	-9.0		1.3	
非製造業	7.9	11.2	4.6	-19.1		6.6	

（単位：%ポイント　　はマイナス）

〔製造業〕

業況判断DIはマイナス4.3。1～3月期（4.7）にくらべ9.0ポイントの悪化。5四半期ぶりの悪化。消費増税にともなう駆け込み需要の反動とみられる。

- ・ DIが改善したのは、機械器具部品と繊維製品。悪化したのは、自動車部品、金属製品、窯業・土石、木材・木製品、食料品。
- ・ 機械器具部品の改善は5四半期連続。足元の設備投資が持ち直しているのが主因。
- ・ 自動車部品は20.3ポイント悪化。前回調査時に予想したほど大きな悪化幅ではなかった。「減産と聞いていたが、むしろ忙しい」の声もあった。
- ・ 木材・木製品は82.8ポイントの大幅な悪化。
- ・ **予想業況判断DI**はマイナス3.0。
- ・ 自動車部品、金属製品、窯業・土石で改善を予想。改善を見込むが、改善幅は小さく、慎重な見方をする企業が少なくない。
- ・ 機械器具部品は悪化予想だが、DIプラスを維持する見通し。



〔非製造業〕

業況判断DIはマイナス11.2。1～3月期（7.9）にくらべ19.1ポイントの悪化。幅広い業種に駆け込み需要の反動などがみられる。

- ・ DIが改善したのは、飲食業と不動産業。悪化したのは、卸売業、小売業、建設業、運輸業、サービス業。
- ・ 飲食業は心配された消費増税による売上への影響は見られなかった。
- ・ 酒類食品卸売業者からは「増税の影響が予想よりも大きい」との声がある。
- ・ 建設業は悪化したものの、DIのプラスを維持。プラスは6四半期連続。DIプラスが1年以上続くのは、1991年以来23年ぶり。

予想業況判断DIはマイナス4.6。改善の予想。卸売業、小売業、建設業、運輸業、サービス業で改善を見込む。

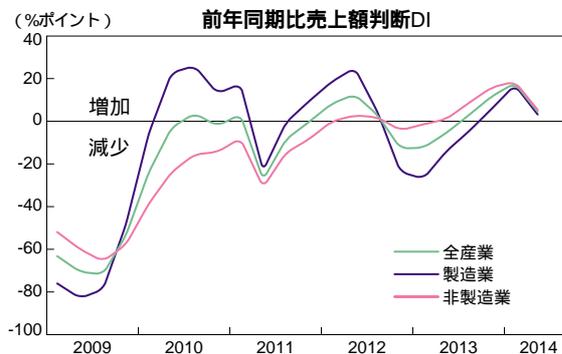
4～6月期の業況		7～9月期の予想	
改善した業種		悪化した業種	
製造業	自動車部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 印刷 食料品	自動車部品 金属製品 窯業・土石	機械器具部品 木材・木製品 繊維製品 印刷
	機械器具部品 繊維製品	食料品は変わらず	
非製造業	卸売業 小売業 建設業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業 建設業 運輸業 サービス業	飲食業 不動産業
	飲食業 不動産業		

売上額・収益

〔全産業〕

前年同期比売上額判断DI（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は4.5〔増加〕。増収（プラス）は4四半期連続。

前年同期比収益判断DI（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス7.8〔減少〕。3四半期ぶりの減益。



消費増税も影響しているとみられる。

原材料仕入価格判断DIは34.6〔上昇〕

〔非製造業〕

販売価格判断DIは15.1〔上昇〕。

仕入価格判断DIは42.5〔上昇〕。

- ・ とくに飲食業、建設業、運輸業で仕入価格の上昇が目立ち、運輸業は収益の圧迫要因にもなっている。
- ・ 仕入価格や人件費の高騰を受けて、販売価格を上げざるを得ない面もあるとみられる。

資金繰り

〔全産業〕

資金繰り判断DI（資金繰りが3カ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）は0.8〔楽〕。

- ・ 資金繰りがプラス〔楽〕になるのは、2007年7～9月期以来。

予想資金繰り判断DIはマイナス3.8〔苦しい〕。

〔製造業〕

資金繰り判断DIは2.3〔楽〕。

- ・ 2007年1～3月期以来のプラス。

予想資金繰り判断DIはマイナス2.8〔苦しい〕。

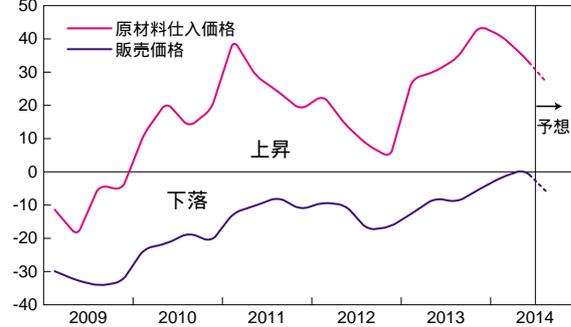
〔非製造業〕

資金繰り判断DIはマイナス0.6〔苦しい〕。

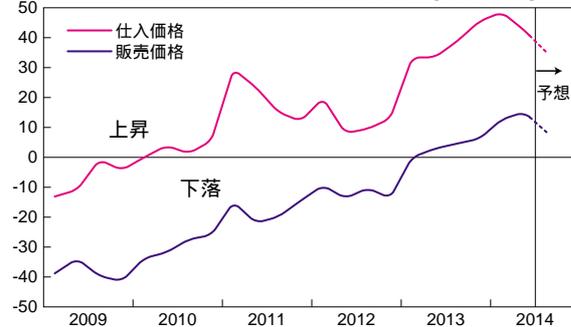
- ・ 3四半期ぶりに「苦しい」に。

予想資金繰り判断DIはマイナス4.5〔苦しい〕。

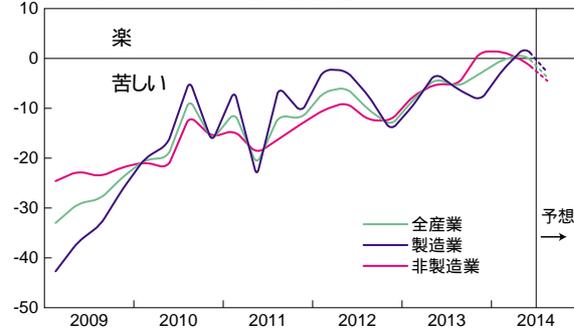
(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



(%ポイント) 資金繰り判断DI



雇用

〔全産業〕

残業時間判断DI（残業時間が3カ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は2.0〔増加〕。

予想残業時間判断DIは0.5〔増加〕。

人手過不足判断DI（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス22.2〔不足〕となり、人手不足感が広がっている。

予想人手過不足判断DIはマイナス23.8〔不足〕となっている。

〔製造業〕

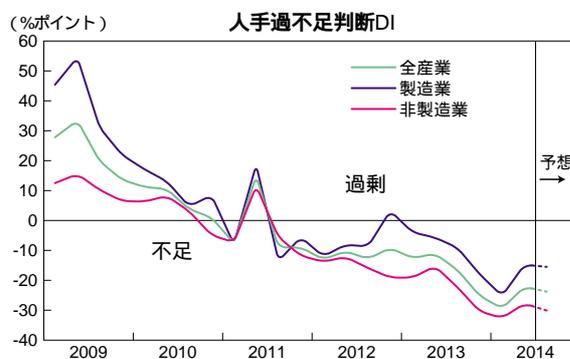
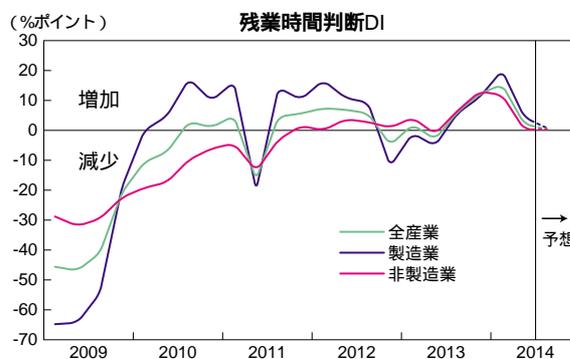
残業時間判断DIは4.3〔増加〕。

予想残業時間判断DIは0.8〔増加〕。

人手過不足判断DIはマイナス14.8〔不足〕。

- ・とくに機械器具部品で人手不足感が広がっている。

予想人手過不足判断DIはマイナス15.5〔不足〕。



		3カ月前と比べた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 食料品	自動車部品 金属製品 印刷	

		人手過不足感	
		人手過剰	人手不足
製造業	印刷	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 食料品	
非製造業		卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	

〔非製造業〕

残業時間判断DIは0.2〔増加〕。予想残業時間判断DIは0.4〔増加〕。

人手過不足判断DIはマイナス27.8〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス30.1〔不足〕。

- ・ 飲食業、建設業、運輸業、サービス業で人手不足感が広がっている。建設業からは「職人や現場作業員などの不足で、工事が予定通り進まない」の声もある。

設備

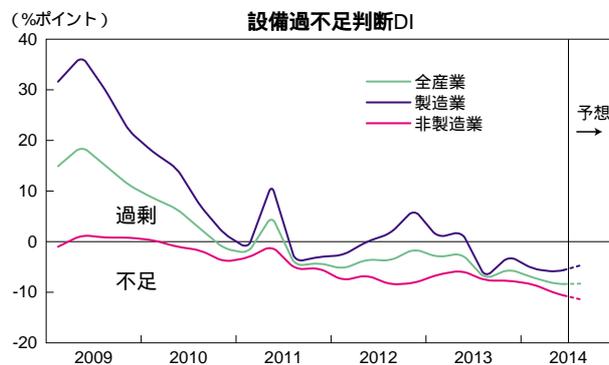
〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス8.4〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス8.3〔不足〕。

4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は27.3%。

7～9月期に設備投資を計画している企業は27.3%。



〔製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス6.0〔不足〕。

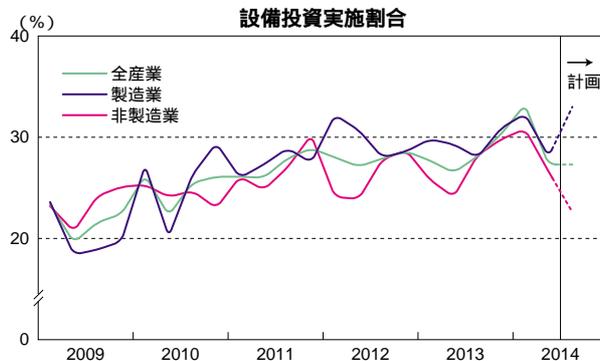
予想設備過不足判断DIはマイナス4.7〔不足〕。

4～6月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は28.1%。

- ・ 内訳としては、機械・設備の新増設55.6%、機械・設備の更改26.3%、車両22.2%、事務機器15.2%などとなっている。

- ・ 設備投資の目的としては、能力増強が40.4%、老朽化に伴う更新が36.4%、合理化・省力化が29.3%などとなった。

7～9月期に設備投資を計画している企業は33.0%。

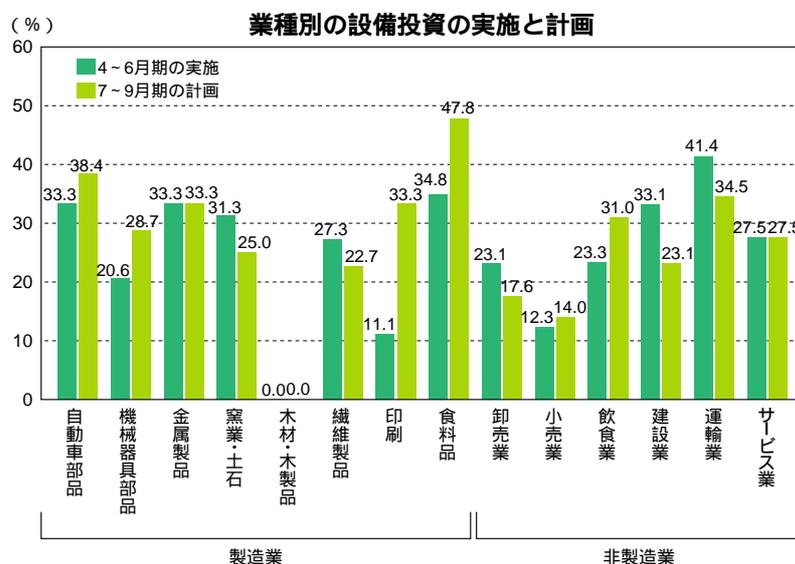


〔非製造業〕

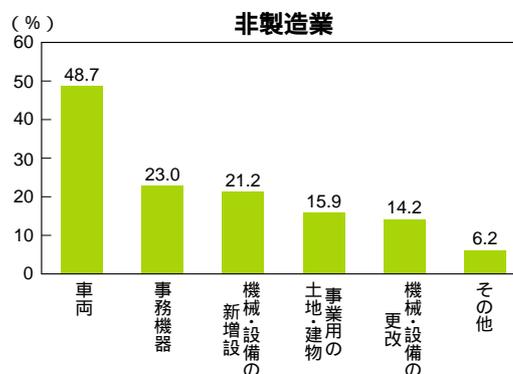
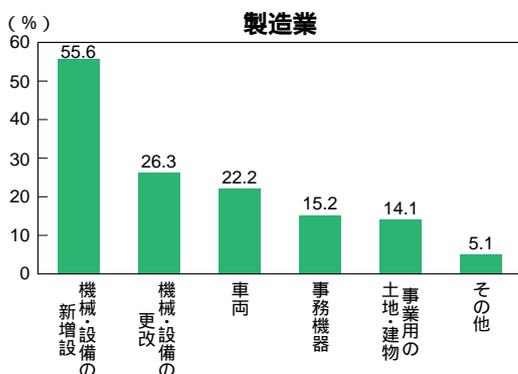
設備過不足判断DIはマイナス10.3〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス11.4〔不足〕。

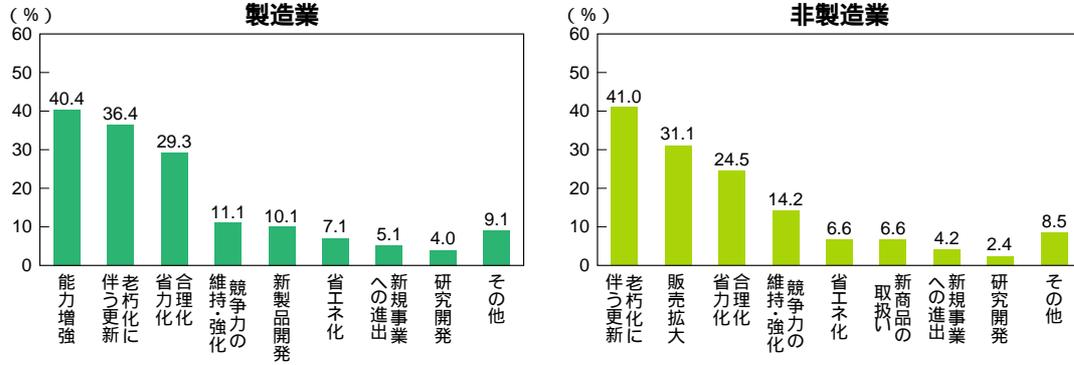
- ・ 4～6月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は26.6%。
- ・ 内訳としては、車両が48.7%、事務機器が23.0%、機械・設備の新增設が21.2%、土地建物15.9%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が45.1%、販売拡大が23.0%、合理化・省力化が20.4%、競争力の維持・強化が16.8%などとなった。
- 7～9月期に**設備投資を計画**している企業は22.6%。



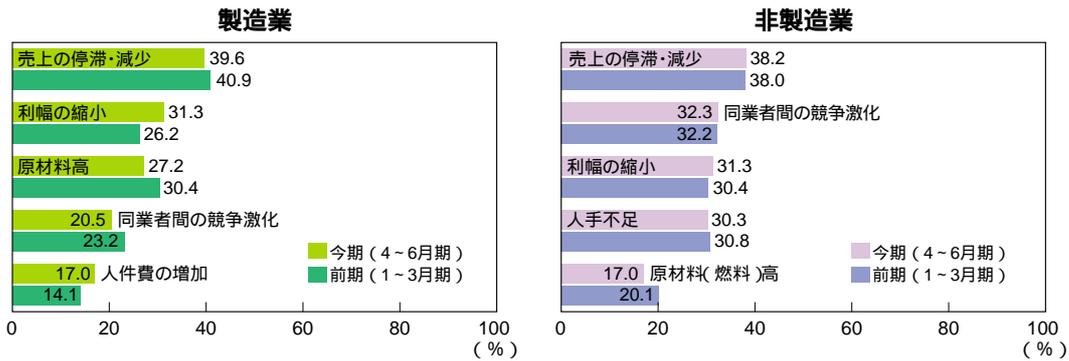
4～6月期の設備投資の内訳



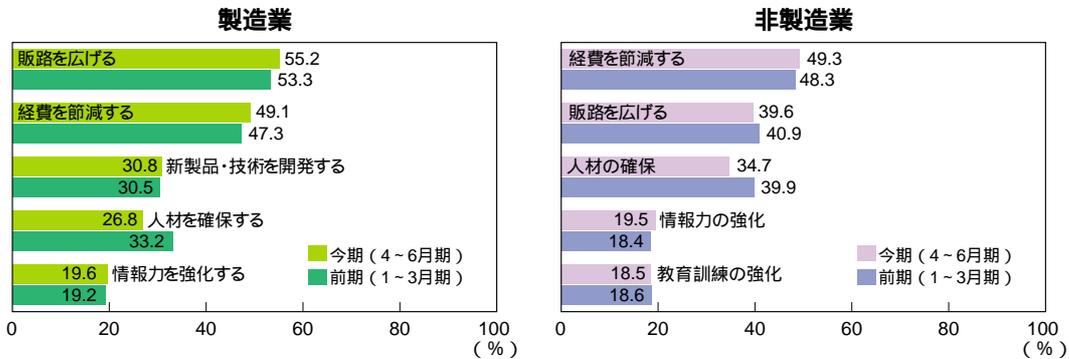
4～6月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



業種別動向

製造業

自動車部品

4～6月期の景況 1年半ぶりに景況感悪化、駆け込み需要の反動で

7～9月期の予想 自動車生産の回復見込み、予想判断DIは改善へ

4～6月期の景況

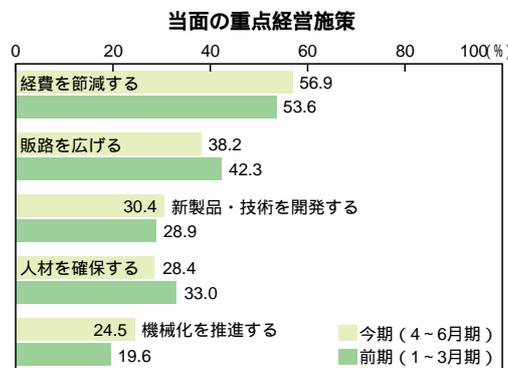
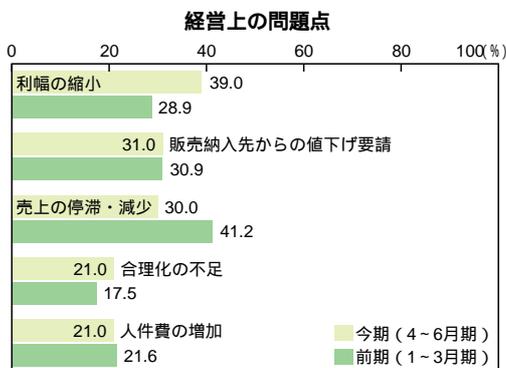
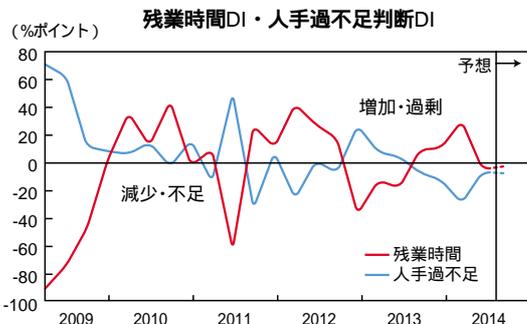
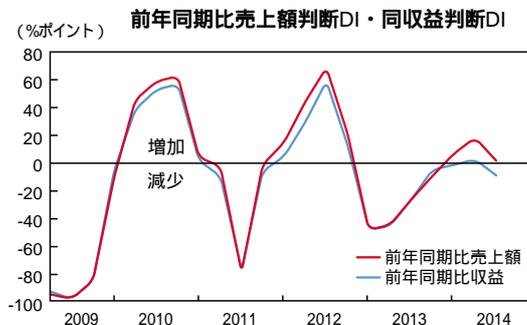
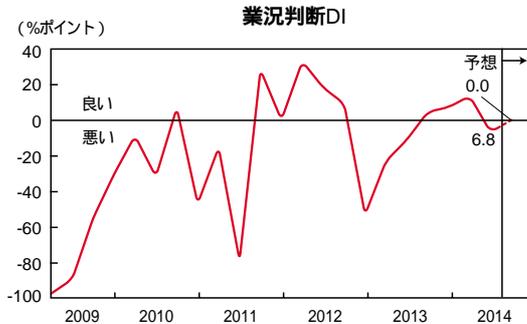
業況判断DIは 6.8。1～3月期（13.5）に比べ20.3ポイント悪化した。悪化は1年半ぶり。消費増税による駆け込み需要の反動が表れた。DIの数値も1年ぶりのマイナスとなった。ただ、前回調査時の4～6月期の予想DI（ -45.8）が大幅なマイナスだったことを考えれば、マインドの低下は限定的なものにとどまった。

前年同期比売上額判断DIは1.0と、プラス〔増加〕を維持。「減産と聞いていたが、むしろ忙しい」「海外向けの部品は比較的堅調」との声も聞かれた。

足元の残業時間は減ったが、人手不足感は依然として解消されていない。

7～9月期の予想

予想業況判断DIは0.0。景況感は改善する見通し。駆け込み需要の反動の影響が徐々に薄れ、自動車生産が戻るとみる向きが少なくない。



4～6月期の景況 景況感8年ぶりの高水準、増収増益が鮮明に

7～9月期の予想 機械需要底堅く、DIはプラスを維持

■4～6月期の景況

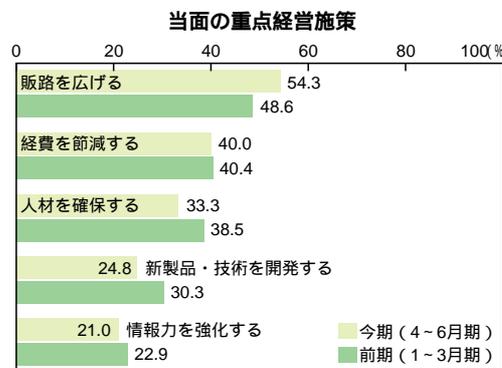
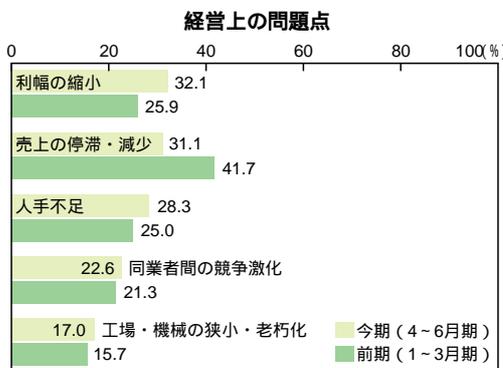
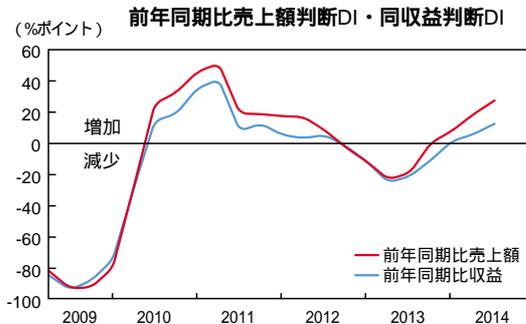
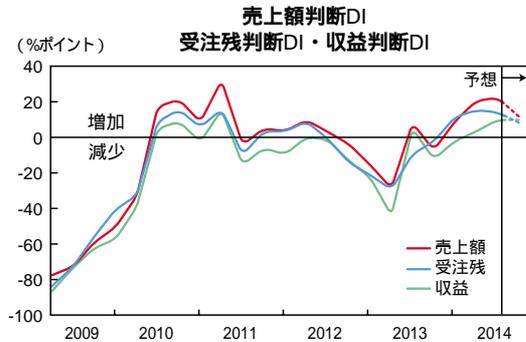
業況判断DIは21.0と、1～3月期（9.2）に比べ改善した。改善は5四半期連続。DIの水準としては、2006年1～3月期（31.1）以来、約8年ぶりの高さ。足元の景況感は回復が続いている。

前年同期比売上額判断DIと同収益判断DIは、ともに三四半期連続のプラス〔増加〕。3ヵ月前と比べた売上額や収益も連続プラス。増収増益の傾向が鮮明になっている。

景気回復にともない、これまで抑制されてきた国内設備投資が持ち直していることや、堅調な外需などが背景にあるとみられる。このなかで人手不足感も広がっている。

■7～9月期の予想

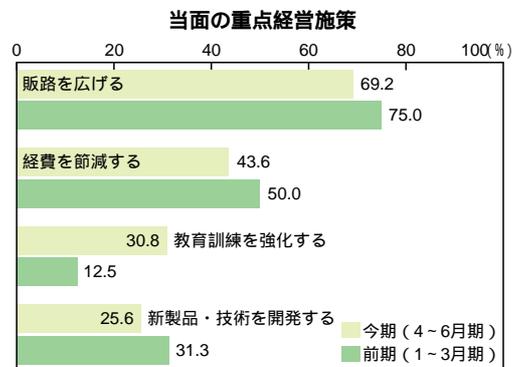
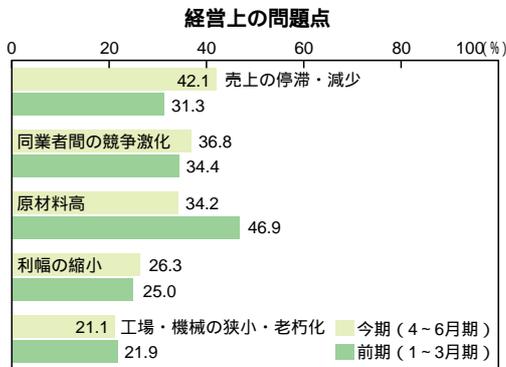
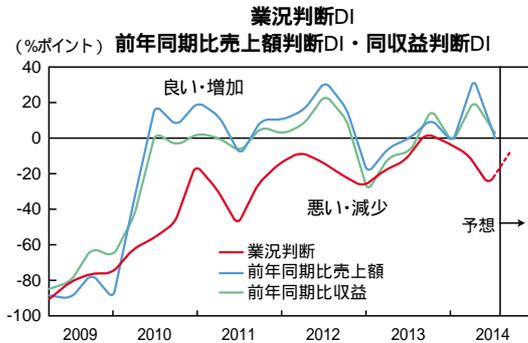
予想業況判断DIは16.5。4～6月期に比べ悪化する予想となったが、プラスを維持する。受注残や売上額、収益の判断DIも引き続き増加域にとどまる見通し。機械需要は外需を中心に底堅く推移するとみられ、マインドが大きく崩れることはないだろう。



□ 【金属製品】

業況判断DIは 26.3。1～3月期（ 9.1）
に比べ大幅に悪化した。悪化は3四半期連
続。消費増税の駆け込み需要の反動の影響
が出ている。前年同期比売上額判断DIは0.0、
同収益判断DIは2.6。

予想業況判断DIは 8.4と、改善する見通
し。当面の重点経営施策では「教育訓練の
強化」のポイント増加が目立つ。

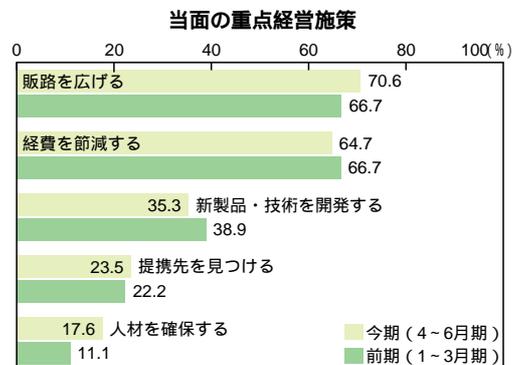
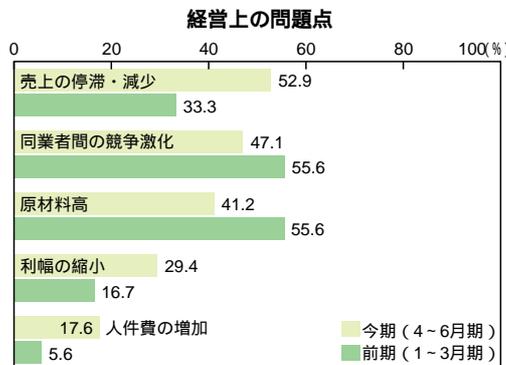
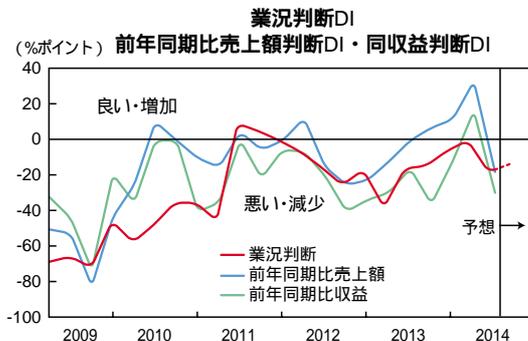


□ 【窯業・土石】

業況判断DIは 17.7。1～3月期（0.0）に
比べ悪化した。DIの悪化は5四半期ぶり。
駆け込み需要の反動などがみられる。

前年同期比売上額判断DIも5四半期ぶりに
マイナス〔減少〕に転じた。販売価格が上
昇しないなか、原材料高が企業収益の足枷
となっている。

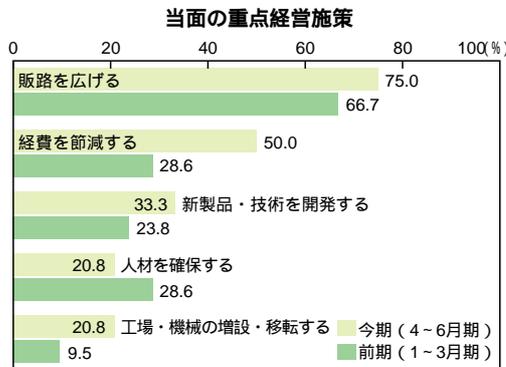
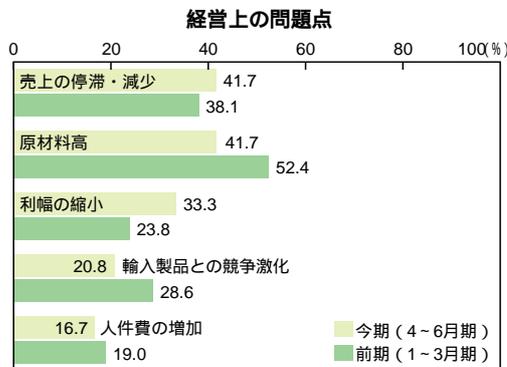
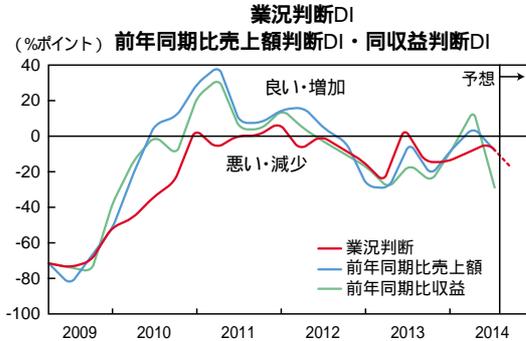
予想業況判断DIは 13.3。



▶ 【繊維製品】

業況判断DIは 4.2となり、1~3月期（9.6）にくらべ改善した。改善は2四半期連続。前年同期比売上額と同収益の判断DIをみると、再びマイナス域へと没している。消費増税の反動とみられる。

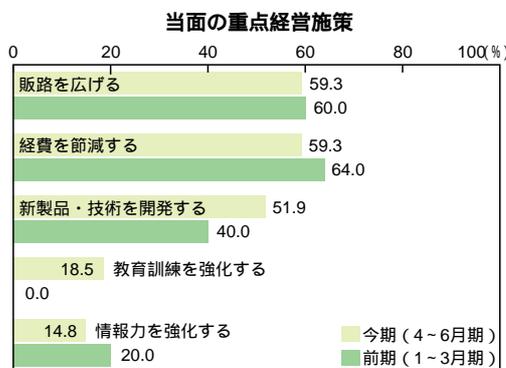
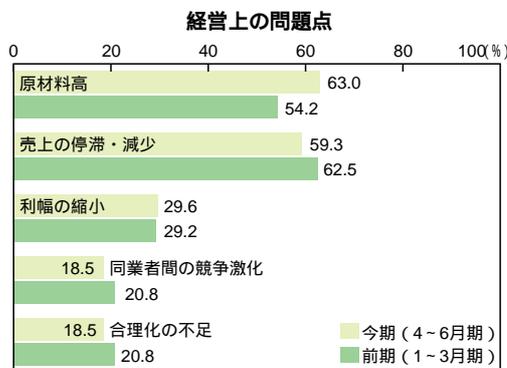
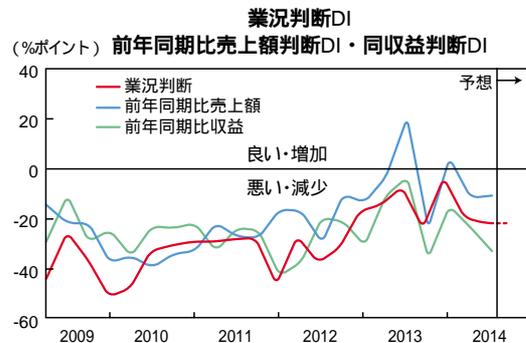
予想業況判断DIは 16.7。悪化する見通し。重点経営施策には「販路の拡大」「経費の節減」などが上位にあがっている。



▶ 【食料品】

業況判断DIは 22.2。1~3月期（20.0）にくらべやや悪化した。前年同期比売上額判断DIも同収益判断DIもマイナス〔減少〕域にあって、総じて低調な業況を余儀なくされている。原材料価格の値上がりから影響している。

予想業況判断DIは 22.2。4~6月期と変わらず、マインドは好転しそうにない。



4～6月期の景況 一年半ぶりの悪化、食料・飲料は予想を超える反動
 7～9月期の予想 予想DIにバラツキ、機械器具卸はプラスへ

■4～6月期の景況

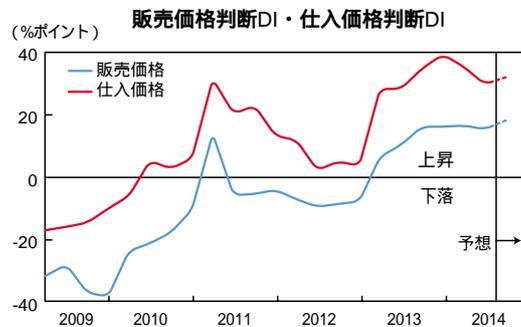
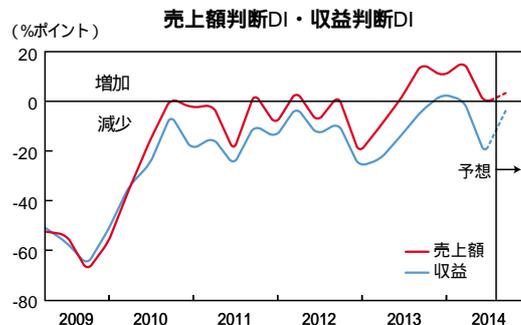
業況判断DIは 19.5となり、1～3月期 (10.5)に比べ悪化した。悪化は一年半ぶり。消費増税にともなう駆け込み需要の反動の影響が予想どおりに出た模様。

取り扱い品目でみた場合、とくに食料・飲料卸の悪化幅が大きい。酒類食品卸業者からは「増税の影響が予想よりも大きい」との声があがった。総じて売上減少が収益悪化を招いた感は否めない。

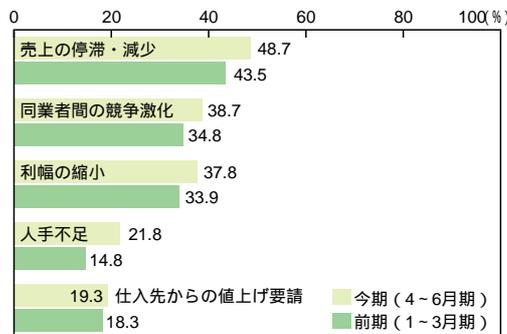
■7～9月期の予想

予想業況判断DIは 14.1。4～6月期に比べ改善する見込みだが、取り扱い品目によってバラツキが見られそうだ。機械器具卸はプラス浮上。農畜産物・水産物卸はさらにDI悪化の見通し。

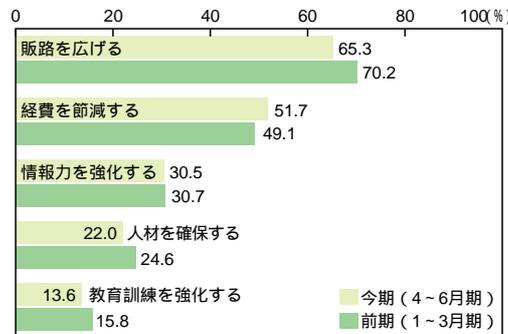
業況判断DI	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月 (予想)
農畜産物・水産物	35.3	25.0	29.4	35.3
食料・飲料	27.3	7.7	46.1	16.6
機械器具	25.0	13.1	16.7	4.2
建設材料	28.5	36.4	23.8	5.0



経営上の問題点



当面の重点経営施策



4～6月期の景況 駆け込み需要の反動響く、景況感大幅に悪化

7～9月期の予想 反動弱まり予想DIは改善、売上額は増加へ

▶ 4～6月期の景況

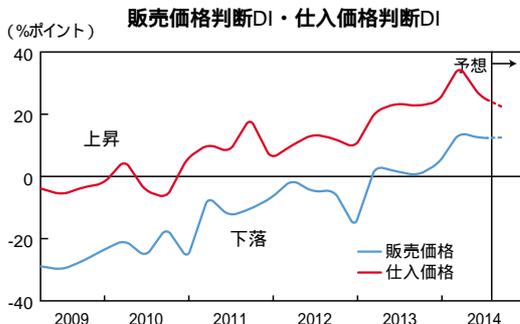
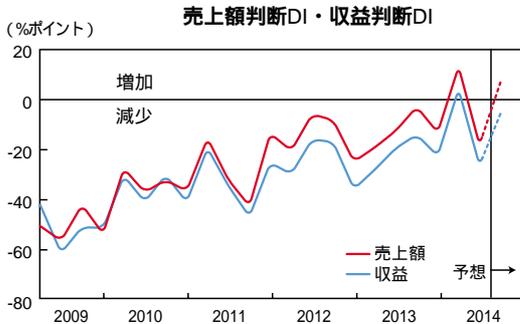
業況判断DIは 31.7となり、1～3月期（ 1.6）に比べ大幅に悪化した。悪化は3四半期ぶり。売上関連、収益関連の各判断DIも軒並みマイナス〔減少〕に陥った。

多くの小売店が想定していたとおり、消費税率の引き上げによる駆け込み需要の反動が響いた。化粧品小売店からは「4月以降、売上が激減した」との強い声もあがった。

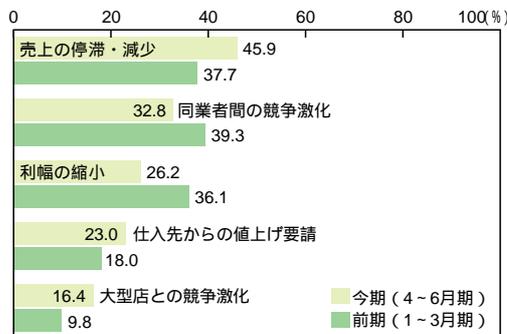
▶ 7～9月期の予想

予想業況判断DIは 15.8。4～6月期にくらべ改善の見通し。

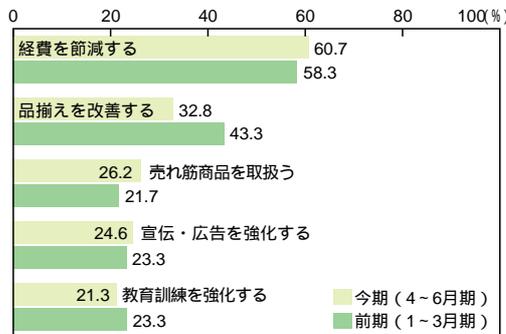
駆け込み需要の反動は、このさき徐々に弱まって売上を少しずつ上向かせていくのではないかと。売上額の予想判断DIはプラス〔増加〕に、収益の予想判断DIもマイナス〔減少〕の幅を縮小している。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



4～6月期の景況 水面下ながらDI改善、消費増税の影響軽微

7～9月期の予想 人手不足が深刻、再びマインド悪化へ

■ 4～6月期の景況

業況判断DIは 20.0。1～3月期（ 38.5）に比べ改善した。改善は2四半期連続。18.5の改善幅は全業種のなかで最大。ただし、DIは依然として水面下にあつて、全体として冴えない状況は続いている。

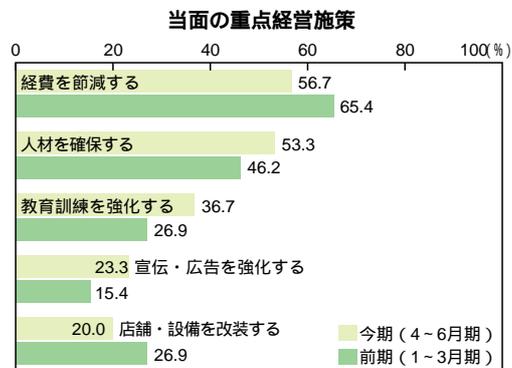
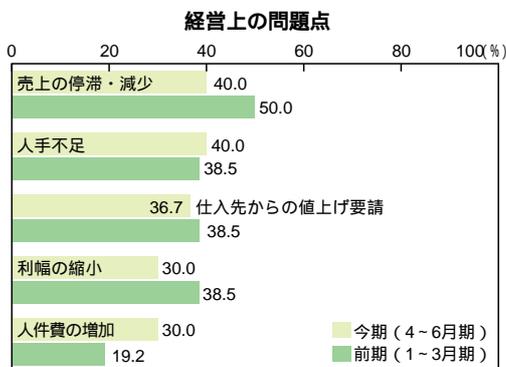
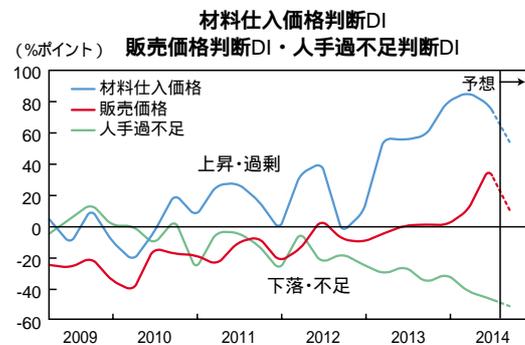
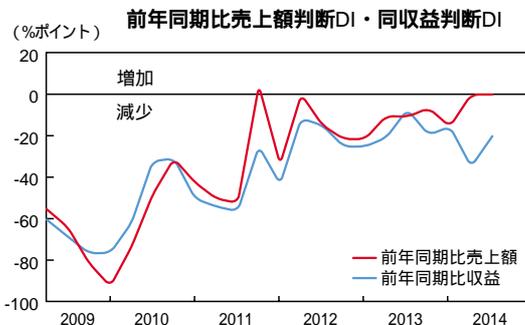
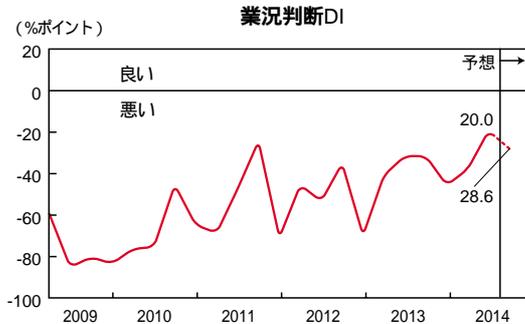
心配された消費増税による売上への影響は、あまり見受けられない。足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIは0.0の横ばい。

消費税率の引き上げで販売価格が上昇しているが、一方で食材仕入価格の上昇も続いており、収益を圧迫する構図は変わっていない。

人手不足も続いている。

■ 7～9月期の予想

予想業況判断DIは 28.6となり、悪化が予想されている。消費増税で消費者の生活防衛意識が高まり、外食を控える可能性も一部で指摘されており、「今後、増税の影響が出るのでは」と懸念する飲食店もみられた。



4～6月期の景況 DIプラス続く23年ぶり、人手不足と材料高を懸念
 7～9月期の予想 マインド改善の見通し、民間工事が牽引

■4～6月期の景況

業況判断DIは1.5となり、1～3月期（22.6）にくらべ悪化した。2四半期連続の悪化となったが、プラスを維持した。プラスは6四半期連続。DIのプラスが1年以上続くのは、1991年以来23年ぶり。

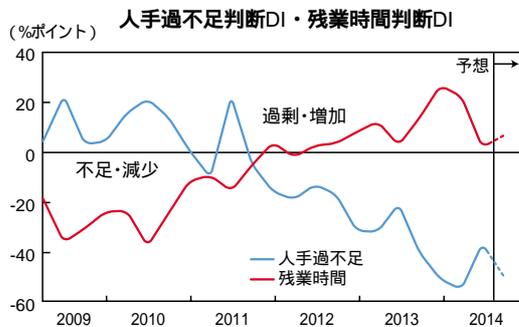
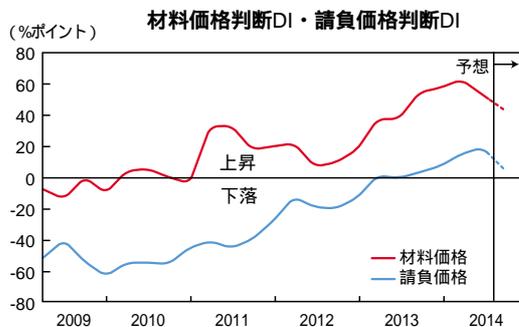
駆け込み需要の反動が全体的に表れているが、底堅い民間工事や公共工事予算の執行前倒しなどが、全体景況を下支えした模様。ただ、住宅建設については、予想以上に景況感の悪化がみられた。（予想DI 6.9 DI 20.0）

人手不足と材料高は依然として懸念材料。「職人や現場作業員などの不足で、工事が予定通りに進まない」「材料価格の高騰で、採算が悪化している」といった声が多く聞かれた。

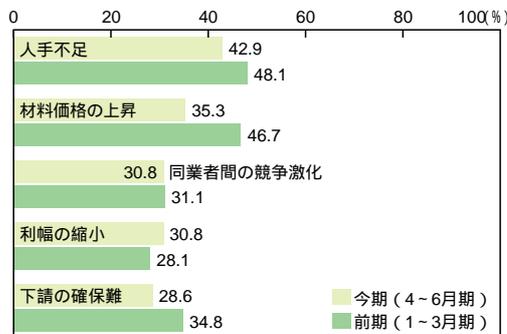
■7～9月期の予想

予想業況判断DIは13.9と、4～6月期にくらべ改善する見通し。

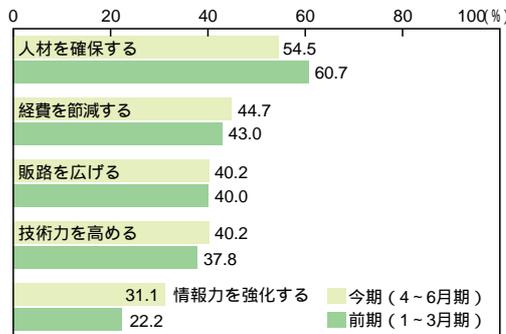
民間工事業の景況は引き続き堅調に推移しそうだが、住宅建設業の持ち直しには少し時間がかかるのではないかと。このさき、人手不足もさらに広がりそうだ。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



4～6月期の景況 マインドほぼ横ばい、消費増税で減収減益

7～9月期の予想 慎重な見方増える、5期ぶりにDIマイナスへ

■ 4～6月期の景況

業況判断DIは2.9となつて、1～3月期(0.0)にくらべ改善した。改善の幅はわずかで、マインドに大きな変化はみられない。

ただ、これまで増加域にあった売上額判断DIや収益判断DIが減少域に転じた。消費増税が分譲住宅販売などへ影響したのではないかと。

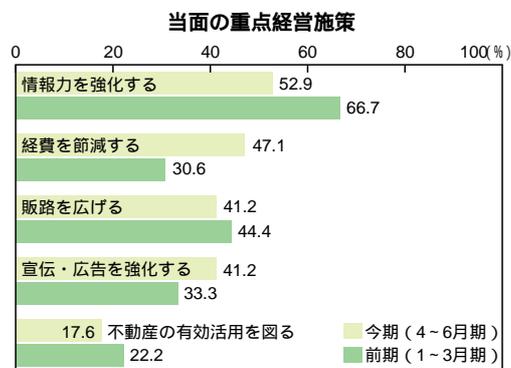
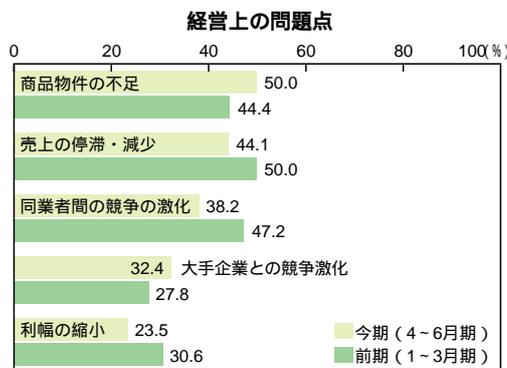
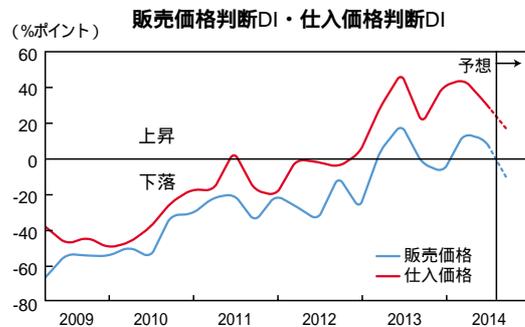
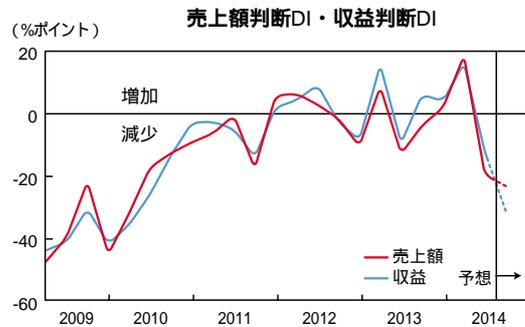
経営上の問題点では「商品物件の不足」がトップになった。

■ 7～9月期の予想

予想業況判断DIは 17.2。予想どおりならば、5四半期ぶりのマイナスに。

業況を「良い」とする企業と「悪い」とする企業はともに減る見通しだが、結果的に「悪い」が「良い」を上回って予想DIがマイナスの形になった。これまでよりも先行きを慎重にみる企業が増えているのは確かなようだ。

当面の重点経営施策では「経費の節減」をあげるところが増えている。



4～6月期の景況 DI悪化も自動車生産が下支え、収益環境は悪化

7～9月期の予想 景況感改善見込むも、引き続き燃料高を懸念

▶ 4～6月期の景況

業況判断DIは 16.1となり、1～3月期(18.2)にくらべ悪化した。悪化は1年ぶり。一転してマイナス域に落ち込んだが、前回調査時に予想(54.8)したほど、大幅なマイナスには至らなかった。トラック運輸業からは「クルマの生産台数が思ったほど落ち込まなかった」の声も出ており、自動車生産が全体景況を下支えしたとみられる。

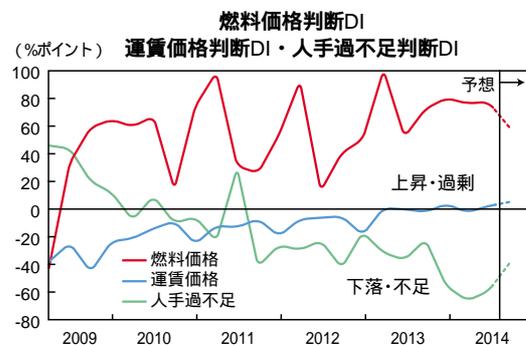
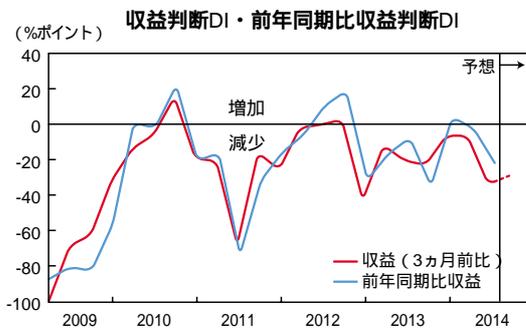
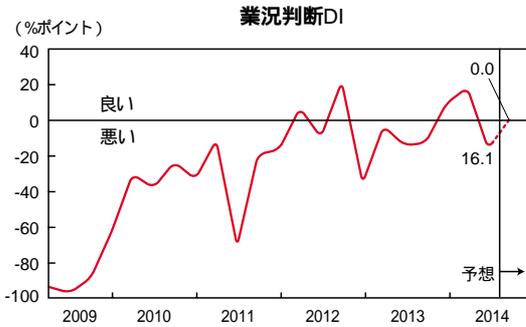
ただ、収益環境は悪化している。運賃価格が上がらないなか、燃料価格の高騰や高速道路の割引率縮小・廃止などで利幅縮小は避けられない情勢。3カ月前比収益判断DI・前年同期比収益判断DIは、ともにマイナスの幅を広げている。

人手不足感も相当に広がっている。人手過不足判断DIは 60.0。

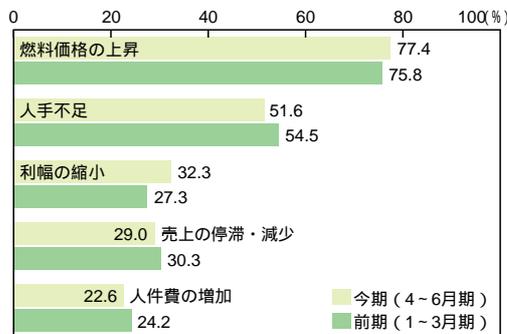
▶ 7～9月期の予想

予想業況判断DIは0.0。改善の見通し。

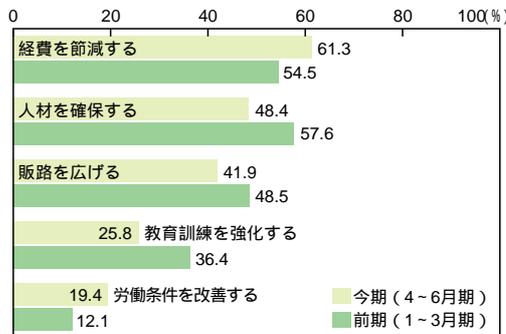
運賃価格の多少の上昇が見込まれているが、燃料価格の高止まりを懸念する見方も依然として多く、厳しい収益環境はあまり改善されそうにない。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



4～6月期の景況 駆け込み需要の反動、DIが3期ぶりに悪化
 7～9月期の予想 景況感は改善の見通し、法人向けが牽引役に

4～6月期の景況

業況判断DIは 5.0となり、1～3月期(1.2)に比べ悪化した。悪化は3四半期ぶり。

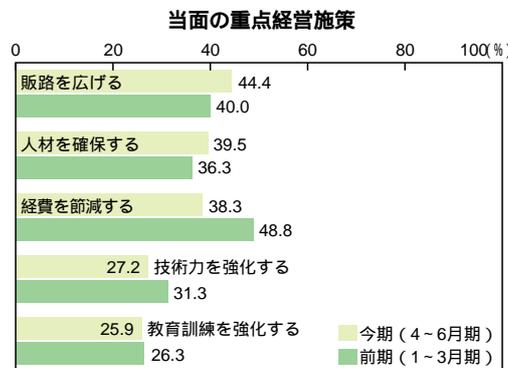
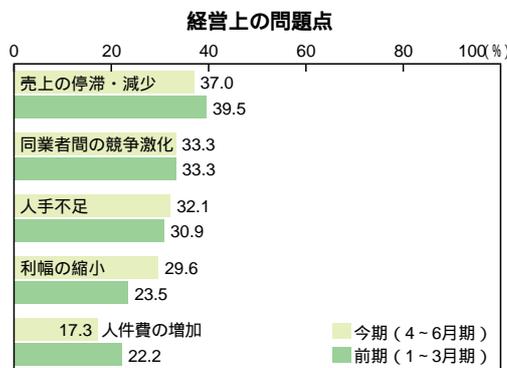
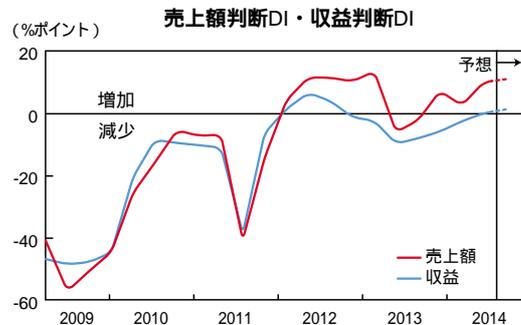
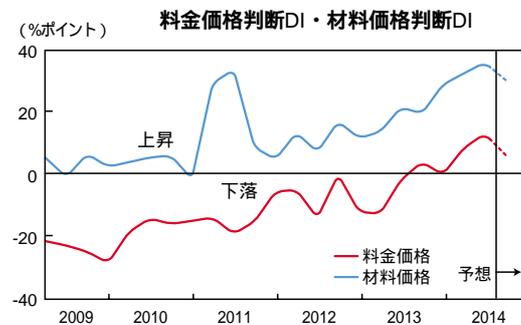
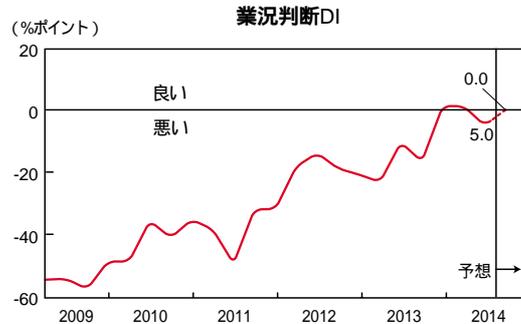
対法人向けサービスのDIは15.8ポイント悪化の7.7。対個人向けサービスは1.8ポイント改善の 27.6となった。駆け込み需要のあった法人向けは反動が表れたが、DIはプラスを維持。個人向けは改善するも深い水面下であって回復が遅れている。

材料価格と料金価格の判断DIをみると、ともに上昇域にあるが、材料価格に料金価格が追いついていない様子がうかがえる。売上にくらべ収益の回復の遅れは、否めない状況にある。

7～9月期の予想

予想業況判断DIは0.0。4～6月期にくらべ改善する見通し。対法人向けが引き続き牽引する。

業況判断DI	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月(予想)
対法人向けサービス	20.0	23.5	7.7	15.4
対個人向けサービス	23.6	29.4	27.6	27.6



お客様から寄せられた声

* 景気動向調査表の通信欄に記載のあった意見をご紹介します。

製造業のお客様

消費増税にともない国内向けは冷え込んだが、海外向けは順調に推移。全体としては好転している。今後、対中国、対韓国、対ロシアで厳しい対応を迫られることも予想される。(自動車部品)

減産と聞いていたが、実際にはそれほどでもない。むしろ忙しい。(自動車部品)

消費増税の影響で売上が減少した。(自動車部品)

円安で国内生産が復活しつつある。(自動車部品)

過剰と思われるほど品質に対する要求が厳しく、結果的に生産コストが上がっている。受注単価は安い。(自動車部品)

円安が定着しつつあり、自動車関連企業からの受注が増加し、恩恵を受けている。定着するのを望む。(鋳型中子)

大手メーカーの海外進出にともない国内受注と売上が減少。(金型・治具)

4月以降、大手企業(上場会社)からの受注はあるが、中小零細企業からは問い合わせもない。(食品機械)

消費増税の影響で、4月以降、売上が低下。原材料の値上がりで利幅も縮小している。(オフィス用品)

増税後の落ち込みを覚悟していたが、5~6月に大口の受注があった。気温も上がっているので、夏の暑さ対策を考えなければ...(木製品)

消費税率が8パーセントになったことによって受注が不安定になっているが、一時的な現象ではないかと思う。小さな企業の廃業が目立つようになっている。(工業用ゴム製品)

消費税率アップの反動が予想以上に大きい。(配合粘土)

人手不足などで公共工事があまり^{はかど}捗っていない関係から、全体として動きが活発とは言い難い。むしろ、競争が厳しくなっていて、資材の値上がり分を転嫁しにくくなった。顧客も価格に敏感になっている。(熔接金網)

今後、新設・増設の設備需要の増加は望めないと思う。同業他社と差別化することで価格競争を避け、利益を上げていきたいと考えている。(クレーン設計製造)

卸売業のお客様

消費増税後の様子を静観していたが、予想よりも落ち込みが小さかった。しかし、これから販売競争がさらに激化するとともに、利益確保が難しくなると予想している。(機械・工具)

4月以降、消費税率アップで買い控えが起きている。オークション会場での中古車の売れ行きが悪くなって、結果として仕入れしやすくなっているが…。修理が多く、中古部品は売れている。(車両解体・中古自動車部品)

消費増税の影響が予想よりも大きい。(酒類・食品)

公共事業向けの売上は例年1～3月に増

え、4～6月に元に戻るのだが、今年の4～6月はいつもよりも少し多い。(道路資材)

駆け込み需要の反動がみられる。(製麺)

増税による買い控えが起きている。(観葉植物)

職人不足で新築建物の着工時期が遅れ、受注した商品の出荷ができないので、売上も伸びない。(建築材料)

小売業・飲食業のお客様

消費税率が8パーセントに上がったことと燃料価格が上がったことで、販売数量が減少。(ガソリンスタンド)

駆け込み需要の反動で、4月の売上が目標に未達。(手芸用品小売)

今のところ、消費増税にともなう売上への影響は心配していたほどではないが、今後どうなるかわからない。(イタリア料理店)

駆け込み需要の反動減は5月まで。消耗品などの売上は順調に推移。(オフィス用品)

顧客動向が流動的で、次の一手が打てずに苦労している。消費増税の影響は

思っていたほど出ていない。(米穀店)

4月以降、売上が激減。(化粧品)

消費増税の影響は心配していたほどではなかった。季節変動の大きい業態なので4～6月は苦しい。7～8月に期待している。(パスタ・デザート)

客数が減少している。(喫茶店)

建設業・不動産業のお客様

増税後の一服感がある。まとまった案件は少ないものの、店舗などの改修工事や昨年度分の工事が今期にずれ込んだ物件も何件もあり、予想していたほど売上の落ち込みはなかった。(タイル施工)

第2東名(27年に開通予定)のインターチェンジの近くに店舗を移した。お客様の数が増えて好調。(建築)

消費増税が売上に大きく響いている。このさき3ヵ月ぐらいは、こんな状態だろう。(土木・ブロック工事)

例年、新年度予算の執行は梅雨明け頃からののに、今年は5月から始まった。景気刺激策の一環と思われる。公共工事の設計時点における物価と執行時点における物価が乖離し、逆ザヤになる物件が多数見受けられる。職人(有資格労働者)の減少により、工事が予定通りに進んでいない。(管工事業)

消費税率が8パーセントになり、来店客が減少。5月以降、少しずつ増えてきているが、まだまだ元に戻りそうにない。(不動産仲介)

極端なくらい値上がっていた建築資材が、やや値下がりしてきた感じがする。(分譲住宅)

売買は乏しいが、不動産の売却時期や購入時期に関する相談が増えている。先行き景気の不透明感は否めない。(土地分譲・仲介)

仕入れはすべて8パーセント。5パーセ

ントで契約した着工中の物件の利益率が低下している。(戸建分譲住宅)

建設労働者や技術者が大型公共工事などに流れて不足している。資材も高騰。工期の大幅な遅れで、この先の業況判断の見通しに苦慮する。(分譲住宅)

見積もり件数は増えているが、円安で材料価格が高騰、職人の確保も難しくなっている。(総合建設)

公共工事は増加しているが、先行きは依然として不透明。材料価格の上昇で採算が悪化している。(建設工事)

職人不足の影響で受注単価が上昇している。(内装工事)

運輸業・サービス業のお客様

トヨタ自動車の生産台数が思いのほか落ちなかった。(自動車部品輸送)

4月以降、観光宿泊客が減少している模様。(リネンサプライ)

消費増税で食材などの経費が増加。(老人介護)

関東方面の工事が増加。古い機種を処分し、新しい機材を揃えたことにより、注文が増加。(建設機械賃貸業)

人材の確保が順調だった。(福祉)

3月に駆け込み需要があり、4月は売上が減少した。(歯科)

中古車の良品が不足。価格が上がっているので手が出せない。(自動車整備)

消費増税の影響でお客様が減少。光熱費も値上がっている。(銭湯)

4月下旬から5月上旬にかけて、例年になく売上が増加した。(総合ビル管理)

消費税率が上がってから、お客さまとの価格交渉が困難になっている。景気が良いとは言えない。(建物管理)